

「ふるさと講座」第1回目のご案内

自然系(四季の野鳥観察)

見
きてね!



●第1回目

タンチョウ・アオサギ・アカアシシギの観察会

とき 平成19年6月24日(日) 午前9時~12時
ところ 野付半島(集合場所 野付半島ネイチャーセンター)
講師 別海町立上西春別中学校 教諭 藤井 薫 氏
持物等 双眼鏡・図鑑など(郷土資料館でも貸出しします。)
服装 野外で活動できる服装で、長靴を持参下さい。

●観察会の見どころ

野付半島では、今までに218種類の野鳥たちが確認されています。その数は日本で確認されている鳥の約40%、根室管内で確認されている鳥の65%に相当します。

今回の観察会では、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ、アオサギや日本国内で唯一繁殖が確認されているアカアシシギを中心にその生態を観察します。



ハジロクロハラアジサシ(撮影:藤井薫氏)

自然系2回目以降の予定。

- 第2回目
コウモリ観察会(奥行臼駅通)
7月23日(月)午後6時~9時
- 第3回目
渡り鳥観察会(野付半島)
11月4日(日)午前9時~12時
- 第4回目
オジロワシ・オオワシ観察会
(風蓮湖)
2月16日(土)午前9時~12時

●昨年の観察会では

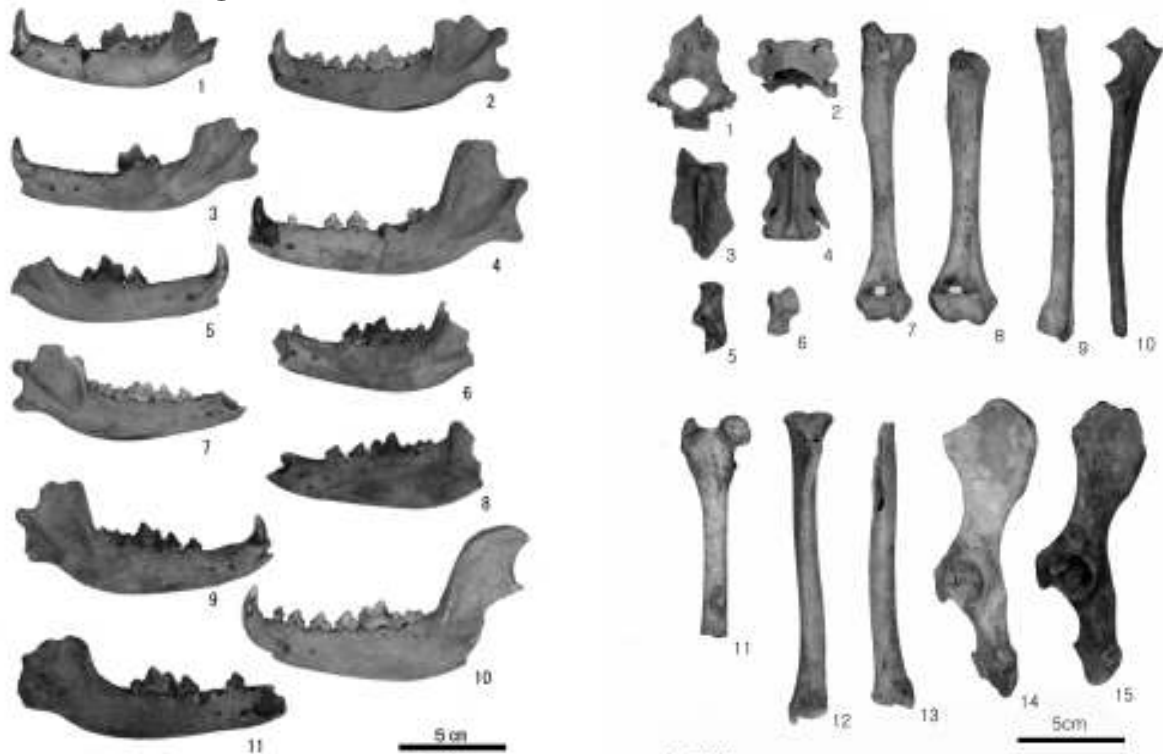
観察出来た野鳥は22種類で、アカアシシギなどを間近で観察することが出来ました。野付半島は、山野の鳥、水辺の鳥の両方を観察することが出来るため、野鳥観察にはもってこいの環境いえます。

また、野付半島で2度目、30年振りのハジロクロハラアジサシを観察することが出来ました。今年はどんな珍しい野鳥が観察出来るかとても楽しみです。

申込方法 郷土資料館へ電話・FAX・メールにて、①住所 ②氏名、③電話番号をお知らせください。

江戸時代の食 2

野付通行屋で、何が食べられていたのか？



イヌ下顎骨
1-4, 6, 8, 10: 左下顎骨 5, 7, 9, 11: 右下顎骨

イヌ鳥骨
1: 後頭骨 2: 第1頸椎 3: 右肩甲骨 4: 第2頸椎 5: 右椎骨
6: 左距骨 7, 8: 右上腕骨 9: 右桡骨 10: 右尺骨
11: 右大腿骨 12: 左胫骨 13: 右胫骨 14, 15: 左翼骨

今月号は、貝塚などから出土した鳥類・哺乳類を紹介します。

鳥類は7種（ハシブトカラス・オオワシ・シマフクロウ・ガンカモ類・アホウドリ・アビ・ニワトリ）で、アホウドリの骨が多く見られました。その他、ニワトリの蹴爪の部分が1点見られ、家畜として飼っていたものでしょうか？

哺乳類は12種（ネズミ類・ヒグマ・イヌ・キタキツネ・トド・アザラシ類・エゾシカ・イルカ・クジラ・ウシ）で、その中でもイヌが最も多く135点の骨が見つかりました。生後3ヶ月程度の幼獣1個体・生後5ヶ月から7ヶ月程度の若獣4個体、生後7ヶ月以上の成獣7個体で、解体痕のあるものがあり、食用とされていたようです。推定体高は45cm前後の中型のイヌであり、北方犬の要素を示すものが大部分であり、本州犬とオホーツク文化犬の混血したタイプのようなようです。

また、ウシの頸骨が1点見られました。ウシは幕末に根室で飼育していた記録があることから、持ち込まれたものではないかと考えられます。

貝類・魚類に比べると量は多くありません。エゾシカなどの野生動物が少なく、イヌが多い結果となりました。江戸時代の日本各地の港町でイヌが食用とされていたことは良く知られており、ノツケでも食用とし有用な家畜であったことが、今回の調査で明らかになりました。

- 「野付通行屋跡遺跡Ⅱ 2007」
西本豊弘「野付通行屋跡遺跡出土の動物遺体について」から

6 月

郷土資料館のお知らせ

- 休館日
2日・3日・11日・16日
17日・25日・30日
- 開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料
一般個人 300円
一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.95

発行日 平成19年6月1日

発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 先日、人を案内し野付通行屋跡遺跡に行く機会がありました。昨年の爆弾低気圧などの通過があり、未発掘部分の状況も気になっていましたが、さほど影響はなかったようです。一方対岸の砂嘴は大きな砂の移動があり先端部の形状が変化していました。今年の気象状況かなり気になります。(石渡)